

平成25年度
事業報告書

公益財団法人エイズ予防財団

事業部門

I 寄付金等による事業

1 啓発普及事業（公1・普及啓発事業）

（1）コミュニティアクション2013

「世界エイズデー」キャンペーンテーマと統一したコンセプトの下で、厚生労働省や地方自治体のキャンペーンと協調しつつ、同時並行的に進めるコミュニティ主導のキャンペーンに参加した。昨年度のテーマ「“AIDS”GOES ON... ～エイズは続いている～」を継承し、公式サイト（<http://www.ca-aids.jp/>）で展開した。

実施期間：平成25年10月15日（火）～12月15日（日）

実施内容：共通課題による全国的なエイズイベント開催の促進及び全国のエイズイベントの情報集約と広報支援

（2）アニコ啓発普及事業

メットライフアニコ生命保険及び同全国代理店会連合会からの寄付金をACジャパン支援広告事業の制作費の一部として活用した。

（3）Act Against AIDS 啓発資材

AAA 運営事務局からの寄付金を基に、「正しい知識を身につけること」が HIV 感染の予防になり、感染者・患者への偏見、差別も生まないという呼びかけを基本として、エイズ知識啓発パンフレット、ポスターを配布した。

（4）抗HIV治療ガイドラインの作成

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究班の協力を得て、同班の作成した「抗HIV治療ガイドライン」を増刷し、配布した（A4版1,000部、縮刷版1,200部）。

（5）「HIV検査普及週間」及び「世界エイズデー」

ア 「HIV 検査普及週間」キャンペーン

厚生労働省主催イベント「レッドリボンウイング ～羽田から全国へ～」に合わせ、街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成 25 年 6 月 2 日（日）14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：渋谷駅ハチ公前周辺（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 2,500 セット

イ 「世界エイズデー」 キャンペーン

厚生労働省主催の世界エイズデーイベント「RED RIBBON LIVE 2013」に合わせ、街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成 25 年 11 月 24 日（日）13 時 00 分～15 時 00 分

場 所：渋谷駅ハチ公前周辺（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 3,300 セット

ウ STOP AIDS ACTION 2013（ベネトン×オカモト）

世界エイズデーに合わせ、アパレルブランド ベネトン及びコンドームメーカーオカモト(株)との共催により街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成 25 年 12 月 1 日（日）13 時 00 分～16 時 00 分

場 所：表参道・看護協会ビル前（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 3,000 セット

(6) その他啓発普及事業

地域で行われているイベント等にブースを設置し、パンフレット、レッドバンド等の配布を行うとともに、募金活動を実施した。

ア 性のマナー教室～STOP AIDS 2013 in 三崎祭～での講義

日本大学経済学部大学祭において、オカモト(株)の実施する性のマナー教室に協力し、世界エイズデーとHIV/エイズの基礎知識について講義を行った。

実施日：平成25年11月3日（日）、4日（月・祝）

場 所：日本大学経済学部本館3階（東京都千代田区）

イ 地域イベント

「24時間テレビ」（パラダイステレビ、8月）／「第14回アール・エスポワール展」（世田谷美術館、12月）／「ハートアートコミュニケーション・エイズチャリティ美術展」（国立新美術館、1～2月）

ウ ブース設置

① AIDS文化フォーラム in 横浜にブース出展

会 期：平成25年8月2日（金）～4日（日）

場 所：かながわ県民センター（横浜市神奈川区）

② AIDS文化フォーラム in 京都にブース出展

会 期：平成25年10月5日（土）～6日（日）

場 所：同志社大学寒梅館、同志社大学良心館（京都市上京区）

③ 「RED RIBBON LIVE 2013」ブース設置

日 時：平成 25 年 11 月 24 日（日）17 時 30 分～21 時 00 分

場 所：SHIBUYA-AX（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 700 セット

備考：世界エイズデーポスターコンクールの入賞作品を展示

(7) ACジャパン支援広告

ACジャパンの支援を受け、HIV検査受検促進を主たる目的とした多角的広報活動を展開した。人気ダンス&ボーカルユニット「EXILE」のAKIRA氏を起用した広告「スタートライン」によって露出量の増大を図り、HIV感染の早期発見及び早期治療についてのメッセージを発信した。

放映期間：平成25年7月1日から1年間

広告媒体：新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、交通広告、自治体等

2 助成事業（公2・助成事業）

(1) エイズ予防財団助成事業

平成25年1月にエイズ予防財団助成事業の公募を行い、この事業の公正中立な実施のために設置された助成事業選考委員会による審査、選考結果を踏まえて助成を行った。

委員：◎鎌倉光宏（慶應義塾大学）／見城美枝子（青森大学）／小坂善治郎（東京富士大学）／中村博（青山学院大学）／吉田智子（パブリックリレーションズプランナー）

○ 平成24年度第2回助成事業選考委員会

日時：平成25年3月25日（月）13時30分～16時30分

会場：結核予防会会議室

内容：平成25年度助成について、24団体からの申請案件に係る審査・選考結果報告がとりまとめられ、理事長への提出があった。これを受けて、次のとおり助成先・助成額を決定した（計13団体、3,500,000円）。

ア エイズ患者・HIV感染者等に対する社会的支援事業

1	NPO法人「Rin かがしま」準備委員会	300,000円
2	NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス	500,000円

イ エイズ患者・HIV感染者等に対する電話相談事業

3	NPO法人AIDSネットワーク横浜	200,000円
4	人権と共生を考えるエイズ・ワーカーズ・福岡	200,000円
5	せかんどかみんぐあうと	200,000円
6	NPO法人りょうちゃんず	200,000円

ウ エイズ予防に関する啓発普及事業

7	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会	500,000円
8	HaaTえひめ	500,000円
9	公益財団法人京都市ユースサービス協会	500,000円

10	特定非営利活動法人現代美術研究会	100,000円
11	みるく・る	100,000円
12	SUWA FRESH PEER	100,000円
13	PLANET (HIVとともに生きる会)	100,000円

(2) ポジティブ・アクション助成事業

ヴィーブヘルスケア株式会社からの寄付金を基に、社会的にインパクトのある取り組み、活動を行うボランティア団体を支援するポジティブ・アクション助成事業を実施することとし、平成25年度助成について公募を行った。

助成の対象となる事業は、①同性愛者等を対象にしたエイズに関する正しい知識の普及等を推進する事業、②中学生・高校生を中心とするティーンエイジャーを対象にした同種事業の二つである。

10団体からの申請案件に係る審査・選考は、前記助成事業選考委員会)において行われ、その選考結果の提出を受けて、次のとおり助成先・助成額を決定し、助成を行った。(計3団体、2,000,000円)。

ア 同性愛者等を対象にした事業

1	東北HIVコミュニケーションズ	500,000円
---	-----------------	----------

イ ティーンエイジャーを対象にした事業

2	NPO法人akta	1,000,000円
3	IFMSA-Japan SCORA (国際医学生連盟日本 性と生殖・AIDSに関する委員会)	500,000円

3 大阪HIV検査センター支援事業 (公1・普及啓発事業)

ブリストル・マイヤーズ株式会社からの寄付金及び米国ブリストル・マイヤーズ・スクイブ基金からの助成金を受けて設置された、大阪検査相談・啓発・支援センター(愛称=chot CASTなんば)の事業を支援するため、chot CASTなんばなど、HIV検査・相談を実施する施設において検査の待ち時間などに放映し、HIV感染症に関する啓発を進めるためのエイズ啓発DVDを制作した。

作品名:「リアルに知るHIV・エイズ」

内 容:「基礎知識編」「検査&治療編」「サポート編」の3部構成

制作数:500個

4 国際協力事業 (公6・国際協力事業)

(1) ASAP (アジア太平洋エイズ学会) の団体会員

ASAPへの団体会員としての関わりを継続した。

(2) GII/IDIに関する外務省/NGO懇談会の団体会員

GII/IDIに関する外務省/NGO懇談会への団体会員としての関わりを継続した。

(3) 第11回アジア太平洋地域エイズ国際会議

タイ王国・バンコク市で開催された第11回アジア太平洋地域エイズ国際会議 (ICAAP) の会議場内における「AP Village Community Booth」において無料ブースを出展し、わが国のHIV感染症/エイズの現状に加え、ACジャパン広告及び同性愛者等向けコミュニティセンターの事業等に関する展示を行い、他国参加者への情報発信と共に意見交換を行った。

日 程：平成25年11月17日（日）～23日（土）

5 情報収集提供事業（公4・調査研究事業）

(1) 第23回抗ウイルス療法研究会支援事業

HIV 感染症やウイルス肝炎などに対する抗ウイルス治療の進歩に資するため、抗ウイルス療法研究会を共催し、製薬会社等からの協賛金を受け入れた。研究会では、特別講演、セミナー2件、口頭発表33件などが行われた。

会 期：平成25年6月13日（木）～14日（金）

場 所：リーガロイヤルホテル東京2階「ダイヤモンド」（東京都新宿区）

6 ファンドレイジング活動

寄付金募集のために、以下の活動を行った。

- ①フライヤー2,000枚を作成し、自治体等関係機関へ配布した。
- ②レッドリボンピンバッチ10,000個を作成し、寄付金を募った。
- ③第22回日本医師バスケットボール大会にブース出展

会 期：平成25年11月2日（土）

場 所：船橋市総合体育館船橋アリーナ（千葉県船橋市）

II エイズ予防対策事業（厚生労働省委託事業）

1 血液凝固異常症実態調査事業（公4・調査研究事業）

血液製剤を通じて HIV に感染した血友病患者を中心に血液凝固異常症の病態を把握し、治療の向上と生活の質の向上に寄与することを目的として、血液凝固異常症患者を治療している全国の医療機関で調査を実施した。1,301 施設、1,487 担当医等に調査票を送付し、708 施設、812 担当医等から 4,142 の症例について回答を得た。

調査結果報告書は、回答のなかった医療機関を含め、すべての担当医及び患者等に提

供し、フィードバックすることにより患者の治療と QOL の向上を図った。

なお、調査の精度及び専門性を確保するため、医療関係者及び患者で構成する全国調査運営委員会を設置して実施した（2 回開催）。

委員：大平勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団理事長）／白幡聡（産業医科大学名誉教授）／◎瀧正志（聖マリアンナ医科大学小児科教授）／立浪忍（聖マリアンナ医科大学教育文化部門医学統計学分野准教授）／仁科豊（仁科・深道法律事務所弁護士）／花井十伍（大阪 HIV 訴訟原告団代表）／三間屋純一（静岡県熱海健康福祉センター所長兼熱海保健所長）

2 HIV 感染者等保健福祉相談事業（公 5・相談事業）

（1）エイズ中核拠点病院における相談事業

エイズ中核拠点病院に相談員を配置し、HIV 感染者・エイズ患者等への心理的援助を行った。今年度から新たに本事業を開始した医療機関は東埼玉病院の 1 件であった。

配置医療機関（32 機関）

岩手医科大学附属病院／大館市立総合病院／福島県立医科大学附属病院／獨協医科大学病院／群馬大学医学部附属病院／東埼玉病院／都立駒込病院／東京慈恵会医科大学附属病院／横浜市立大学附属病院／新潟大学医歯学総合病院／富山県立中央病院／福井大学医学部附属病院／岐阜大学医学部附属病院／名古屋医療センター／三重大学医学部附属病院／滋賀医科大学医学部附属病院／京都大学医学部附属病院／大阪市立総合医療センター／市立堺病院／兵庫医科大学病院／奈良県立医科大学附属病院／島根大学医学部附属病院／山口大学医学部附属病院／香川大学医学部附属病院／高知大学医学部附属病院／産業医科大学病院／佐賀大学医学部附属病院／長崎大学病院／熊本大学医学部附属病院／県立宮崎病院／鹿児島大学病院／琉球大学医学部附属病院

（2）相談支援事業

相談の精度確保及び均てん化を図るため、全国の相談員を一堂に招集し、国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター（以下「ACC」）及び地方ブロック拠点病院の医師、カウンセラー等による指導、講義・事例検討等を行うとともに、情報・意見交換を行った。

実施日：平成 26 年 1 月 11 日（土）～12 日（日）

場 所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）

参加者：34 人（うち本事業未実施機関からの参加者 3 名）

（3）HIV 検査事業

ア 厚生労働省主催イベントに合わせた臨時 HIV 検査を実施した。

○HIV 検査普及週間

実施日：平成 25 年 6 月 2 日（日）

場 所：シブヤ・ネクサス（東京都渋谷区）

受検者：54 人

備 考：「レッドリボンウイング ～羽田から全国へ～」に合わせて実施

○世界エイズデー

実施日：平成 25 年 11 月 24 日（日）

場 所：シブヤ・ネクサス（東京都渋谷区）

受検者：56 人

備 考：「RED RIBBON LIVE2013」に合わせて実施

イ 「HIV 検査・相談窓口」における情報サービスの実施

全国の保健所等における検査日時や場所、予約の方法、電話相談等についての情報を収集し、エイズ予防情報ネット（以下「API-Net」）を通じて提供した。

（4）専門相談員による電話相談

当財団内に電話相談室を設置し、専門相談員による電話相談を実施した（フリーダイヤルで、月曜から金曜までの毎日、午前 10 時～午後 1 時、午後 2 時～5 時）。

平成 25 年度電話相談受付件数：7,129 件

3 HIV 診療医師情報網支援事業（公 1・普及啓発事業）

HIV 感染症の臨床医等による交流等の連携を図るため各ブロックに設置された情報網に対し、必要な支援を行った。各情報網では、症例検討会や講演会の開催、ネットワーク紙の発行等のほか、今後の取り組みを共有するための会議を開催した。

支援先情報網（7 ヵ所）

東北 HIV 診療支援ネット／HIV 感染症の医療体制構築を目指すネットワーク（新潟）／東海ブロックエイズ診療拠点病院連絡協議会／北陸 HIV 臨床談話会／関西 HIV 臨床カンファレンス／岡山 HIV 診療ネットワーク／九州ブロックエイズ診療ネットワーク会議

4 エイズ治療拠点病院医療従事者海外実地研修事業（公 2・助成事業）

エイズ治療拠点病院における診療能力の向上及び HIV 感染症／エイズ診療のリーダー的役割を担う人材の育成を図るため、エイズ診療の経験豊富な海外医療機関に医療従事者を派遣し、臨床実地研修を実施した。

サンフランシスコ（医師等コース）

研修先：カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校

日 程：10 月 26 日（土）～11 月 10 日（日）

受講者：6人（医師3名、薬剤師3名）

5 エイズ国際会議研究者等派遣事業（公2・助成事業）

わが国のエイズ対策の広範な充実、活性化を図ることを目的として、第11回アジア太平洋地域エイズ国際会議に参加する研究者、NGO スタッフ、医療従事者等の会議登録料、旅費等を助成した。

会議開催期日：2013年11月18日（月）～22日（金）

開催場所：バンコク市（タイ王国）

クイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センター

会議テーマ：Asia/Pacific Reaching Triple Zero: Investing in Innovation

「アジア太平洋地域での3つのゼロの実現：革新への投資」

派遣者：8人

6 エイズ国際協力計画推進検討事業（公4・調査研究事業）

東南アジア地域等におけるわが国のHIV感染症・エイズ対策分野での国際協力計画作成のための提言を行うことを目的に、近年、HIV感染率の上昇がみられるフィリピンを訪問し、HIV感染症・エイズまん延状況、エイズ予防啓発活動等の現地視察及び現地担当者との意見交換等を行った。

訪問地：フィリピン共和国 マニラ市、ケソン市

日程：平成26年2月24日（月）～28日（金）

調査者：柏崎正雄、久保山緑

7 エイズ予防情報センター事業（公4・調査研究事業）

パソコンサイトによりAPI-Netを運営し、HIV感染者・エイズ患者やその家族、一般国民、医療関係者等に対し、エイズに関する啓発情報、HIV検査情報、NGO活動情報等を提供した。特に、6月のHIV検査普及週間及び12月1日の世界エイズデーに際しては、各自治体で実施されるイベントや臨時HIV検査などについて情報収集し、特設ページにより公開した。年間のアクセス件数は168,527件であった。

8 青少年エイズ対策事業

（1）学校と地方保健行政の連携における青少年エイズ予防対策事業の実施

（公3・人材育成事業）

青少年を対象とする、科学的根拠に基づいたエイズ予防事業の実施を目的に、全国の地方自治体・保健所等のエイズ対策担当者を対象とした「地域エイズ予防コアリーダー」育成のための研修会を実施した。また、同コアリーダーが地域において予防啓発活動を実施するための支援として、パンフレットの作成、提供を行った。

実施日：平成 25 年 7 月 16 日（火）～17 日（水）

場 所：京都ガーデンパレス

受講者：55 人（19 府県、49 保健所）

（2）「世界エイズデー」ポスターコンクール（公1・普及啓発事業）

全国の小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及び一般を対象に、HIV 感染症・エイズ予防及び差別・偏見の解消を呼びかけるポスターコンクールを実施した。

受賞作品は API-Net で公表するとともに、厚生労働省主催の世界エイズデーイベント会場においてパネル展示した。また、世界エイズデー啓発ポスター用として選定した作品は、厚生労働省により印刷され、全国に配布された。

募集期間：平成 25 年 4 月 30 日（火）～9 月 6 日（金）

応募総数：575 点

第 1 次審査会

日 時：平成 25 年 9 月 19 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：結核予防会会議室

結 果：第 1 次審査通過作品は 575 点中 79 点であった。

本審査会

日 時：平成 25 年 10 月 2 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：結核予防会会議室

結 果：小・中・高・一般の各部門につき最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、佳作 3 点を選考した。また、各部門の最優秀賞作品の中から 1 点を「世界エイズデー」啓発用ポスターとして選定した。

9 エイズ治療啓発普及事業（公1・普及啓発事業）

（1）世界エイズデー・キャンペーンテーマ検討会議の実施

世界エイズデー・キャンペーンテーマの決定プロセスにできるだけ多くの人に関与してもらおうよう、API-Net による意見募集、フォーラムを開催の後、選考委員によるテーマ検討会議での議論、ワーディングを経てキャンペーンテーマ案を策定し、厚生労働省に提出した。

委員：荒木順子（NPO法人akta）／泉山隆一郎（厚生労働省）／栗原千秋（東京都）
／清家瑞穂（サンスター株）／長谷川博史（JaNP+）／宮田一雄（産経新聞）
／吉田智子（PRプランナー）

- ・第 1 回フォーラム（参加者 20 人）

日 時：平成 25 年 5 月 24 日（金）18 時 30 分～20 時 00 分

場 所：コミュニティセンターakta（東京都新宿区）

- ・第 2 回フォーラム（参加者 16 人）

日 時：平成 25 年 6 月 10 日（月）18 時 30 分～20 時 00 分

場 所：大阪検査相談・啓発・支援センター「chotCASTなんば」オープンスペース（大阪市浪速区）

・第 1 回テーマ検討会議

日 時：平成 25 年 7 月 8 日（月）18 時 00 分～20 時 00 分

場 所：エイズ予防財団会議室（東京都千代田区）

・第 2 回テーマ検討会議

日 時：平成 25 年 7 月 12 日（月）18 時 00 分～20 時 00 分

場 所：エイズ予防財団会議室（東京都千代田区）

（2）情報提供誌の発行

エイズに関する治療、研究等の情報を全国のエイズ治療拠点病院の医療従事者等に提供し、診療支援を行うことを目的とした情報提供誌を作成、配布した。内容は、HIV感染者等保健福祉相談事業 相談支援事業として実施した研修会から、『最前線の治療と問題点－生存を目的とした治療からQOL向上を目指した治療へ－』と『中核拠点病院におけるカウンセリングの現状と課題』の二つを選択し、冊子としてとりまとめたものである。

発行部数：500 部

（3）パンフレットの作成・提供

国民一般を対象とした HIV 感染症／エイズの基礎知識に関するパンフレットを作成し、自治体等からの要請に応じて提供した。

・ HIV／エイズの基礎知識 30,000 部

10 ボランティア指導者育成事業（公 3・人材育成事業）

エイズ NGO 活動におけるリーダー養成のため、NGO 指導者研修会を開催し、HIV の疫学と治療、福祉制度に関する最新知見の取得、HIV 感染症と法律相談等、各 NGO 活動の経験共有や、企画能力の向上を図る講座を提供した。

実施日：平成 26 年 3 月 1 日（土）～2 日（日）

場 所：TKP 大阪梅田駅前ビジネスセンター（大阪市福島区）

受講者：18 人

11 相談員養成研修事業（公 3・人材育成事業）

（1）HIV／エイズ基礎研修会

HIV 感染症／エイズに関する基本的な知識及び HIV 陽性者や支援活動への理解の向上を図るため、次のとおり研修会を実施した。

目的：エイズの流行状況、HIV 感染症の病態と治療、HIV 感染症の予防方法を学ぶとともに、HIV 陽性者や支援活動の実際を知る。

対象：エイズに関する業務・活動に携わる（又は携わろうとしている）行政担当者、医療関係者、教育関係者、介護関係者、企業、NGO、学生等

実施日：平成 25 年 7 月 26 日（金）

場所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）

受講者：84 人

（2）HIV 検査相談研修会

HIV 感染症／エイズに関する相談体制の質の向上・充実を図るため、次のとおり研修会を実施した。

目的：HIV 感染症の病態・治療、HIV 検査、セクシュアリティに関する知識や対応ポイント等について学ぶとともに、検査相談時対応の演習を行う。

対象：HIV 検査相談業務に携わる保健所、保健センター、クリニックを含む医療機関及びその他機関の担当者

実施日：東京 平成 25 年 8 月 22 日（木）～23 日（金）

大阪 平成 25 年 10 月 17 日（木）～18 日（金）

場所：東京 TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）

大阪 新梅田研修センター（大阪市福島区）

受講者：東京 75 人、大阪 79 人

12 中核拠点病院連絡調整員養成事業（公 3・人材育成事業）

エイズ中核拠点病院の看護師等を養成し、HIV 診療に必要なチーム医療の調整及び地方ブロック拠点病院やエイズ治療拠点病院との調整に必要な能力を習得させることにより、地方ブロック拠点病院に患者等が集中する事態の解消並びに適切な医療の提供を図った。

（1）研修事業

エイズ中核拠点病院において HIV 医療に係る診療科間連携調整等のチーム医療に従事する看護師等を対象とし、2 ヶ月間の研修を実施した。

研修期間中初期の 1 ヶ月間は ACC 又は大阪医療センターの実施するコーディネーターナース研修への参加とし、その後の 1 ヶ月間は地方ブロック拠点における実地研修を行った。

受講者：沼津市立病院 1 人（ACC／名古屋医療センターにて研修）

産業医科大学病院 1 人（ACC／九州医療センターにて研修）

熊本大学医学部附属病院 1 人（ACC／九州医療センターにて研修）

(2) 全国中核拠点病院連絡調整員会議

前記のチーム医療に従事する看護師等の連絡調整員（同様の役割を担う者を含む。）等を対象とする会議を開催した。

ACCの医師による HIV 診療に係る最新情報の講義のほか、コーディネーターナース、訪問看護師、医療ソーシャルワーカーによる連携事例紹介、地方ブロック拠点病院看護実務者との合同により、各病院・地域の現状報告、情報提供などを行った。

実施日：平成 26 年 3 月 7 日（金）～8 日（土）

場 所：国立国際医療研究センター研究所会議室

参加者：27 機関 31 人

13 HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業

治療の進歩により長期存命が可能となった HIV 感染者・エイズ患者に対する在宅医療・介護の環境を整備するため、訪問看護を行う看護師等への実地研修、在宅医療・介護を行う医療機関等への支援チーム派遣、地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師等への HIV 医療講習会を実施した。

(1) 実地研修事業（公 3・人材育成事業）

訪問看護・訪問介護サービスを提供している事業所の看護師や介護職員をエイズ中核拠点病院等に 1 週間程度派遣し、HIV 感染症／エイズ医療に係る実地研修を実施した。研修を実施した病院は次の 16 病院である。

仙台医療センター、筑波大学附属病院、栃木県済生会宇都宮病院、横浜市立大学附属病院、山梨県立中央病院、新潟大学医歯学総合病院、石川県立中央病院、岐阜大学医学部附属病院、名古屋医療センター、奈良県立医科大学附属病院、和歌山県立医科大学附属病院、川崎医科大学附属病院、高知大学医学部附属病院、産業医科大学病院、県立宮崎病院、鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

なお、準備を整え受講生の募集を行ったが、実施に至らなかった病院は次の 3 ヶ所であった。

富山県立中央病院、大阪市立総合医療センター、琉球大学医学部附属病院

(2) 支援チーム派遣事業（公 5・相談事業）

エイズ治療の専門的知識を有する支援チームをエイズ中核拠点病院に設置し、在宅医療・介護を行う医療機関等の要請に基づいて同支援チームを派遣する事業を実施した。

支援チームを設置した病院は次の 22 病院であり、そのうち、支援チームを派遣したのは滋賀医科大学附属病院の 1 ヶ所である。

岩手医科大学附属病院、筑波大学附属病院、栃木県済生会宇都宮病院、横浜市立大学附属病院、新潟大学医歯学総合病院、富山県立中央病院、石川県立中央病院、県立須坂病院、岐阜大学医学部附属病院、浜松医療センター、名古屋医療センター、

滋賀医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院、大阪市立総合医療センター、兵庫医科大学病院、島根大学医学部附属病院、香川大学医学部附属病院、愛媛大学医学部附属病院、高知大学医学部附属病院、産業医科大学病院、熊本大学医学部附属病院、琉球大学医学部附属病院

(3) HIV 医療講習会の開催（公3・人材育成事業）

地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師、看護師等を対象として、HIV 感染症／エイズに関する知識や感染予防等に関する講習会を都道府県医師会、同歯科医師会の協力を得て実施した。

講習会を実施した医師会と歯科医師会は、次の道府県のとおりである。

○ 医師会（10 機関）

青森県／岩手県／秋田県／茨城県／富山県／奈良県／大阪府／広島県／山口県／長崎県

○ 歯科医師会（16 機関）

北海道／岩手県／宮城県／茨城県／群馬県／埼玉県／神奈川県／山梨県／愛知県／三重県／岐阜県／石川県／大阪府／兵庫県／鳥取県／愛媛県

（注：講習内容の質の確保と統一化を図るため、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業研究班の協力を求めた。）

III 同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業

（厚生労働省委託事業、公1・普及啓発事業）

わが国における近年の HIV 感染者・エイズ患者の発生動向を踏まえ、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」に基づき、個別施策層である同性愛者等に対して NGO 等による当事者性のある活動を支援することにより、エイズに関する正しい知識の普及等を推進するため、以下の事業を実施した。

1 同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業推進協議会の設置

同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業を効果的・効率的に推進するためには、1 つのコミュニティセンターが単独で事業を行うのではなく、他のセンター及び厚生労働省エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究班」（研究代表者・市川誠一）との協調・協働が重要である。そのため、研究者等による推進協議会を設置し、事業活動方針の協議や事業の評価のための協議会を3回開催した。

委員：生島嗣（ふれいす東京）／◎市川誠一（名古屋市立大学）／伊藤俊広（仙台

医療センター) / 内海眞 (東名古屋病院) / 鬼塚哲郎 (京都産業大学) / 健山正男 (琉球大学) / 山本政弘 (九州医療センター)

- ① 開催日：平成25年8月20日 (火)
方 法：書面報告
議 案：平成24年度事業報告・会計報告
- ② 開催日：平成25年12月22日 (日) 12時20分～13時20分
場 所：ハロー貸会議室神田
議 案：平成25年度事業計画書に対する厚労省からの指導／平成26年度事業計画編成方針の検討
- ③ 開催日：平成26年3月30日 (日) 10時00分～16時00分
場 所：結核予防会会議室
議 案：厚生労働省の企画競争／平成26年度非常勤職員雇用／今後の推進協議会の運営／平成26年度事業計画・予算

2 コミュニティセンターの設置・運営等

同性愛者等向けコミュニティセンター (以下「センター」という。) を、仙台市青葉区国分町、東京都新宿区新宿2丁目、名古屋市中区栄、大阪市北区堂山町、福岡市博多区住吉、沖縄県那覇市壺屋の6地域に設置し、以下の事業を行った。

(1) 地域ボランティア団体 (CBO) による運営

センターの運営は、上記研究班においてコミュニティベースの啓発活動の実績を示してきた、地域の男性同性愛者等で構成する CBO の協力を得、同性愛者等に訴求性のある効果的な啓発活動を推進した。

① コミュニティセンター機能

ア ゲイ・コミュニティにアクセスする人々や、その他の MSM が自由に立ち寄ることができ、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる拠点提供 (啓発資材の収集・提供、コミュニティ情報の収集・提供、情報収集のためのインターネット利用の提供など)

イ HIV 感染症／エイズ、セクシュアルヘルスの情報発信を目的とした交流会・勉強会・研修会等の実施

ウ 地域の HIV 感染症／エイズの状況をゲイ・コミュニティ等に還元する成果報告の会場提供

エ 地域のゲイ・コミュニティを活性化するための会場提供

オ セクシュアリティや性、STI/HIV などに取り組む他の関連機関との協働、連携の拠点

② 同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業連絡会議

○開催日：平成25年10月29日 (火) 11時30分～17時00分

場 所：コミュニティセンターakta

議 題：平成 25 年度事業計画に対する厚労省からの指導／事業継続に向けての動向／委託状況事業実施における課題ほか

○開催日：平成25年11月20日（水）15時00分～17時55分

場 所：熊本市民会館2階

議 題：今後のコミュニティセンター事業とMSM対策／今後のスケジュールほか

○開催日：平成25年12月20日（金）14時00分～17時00分

場 所：結核予防会会議室

議 題：平成26年度事業計画・予算／平成26年度仕様書（案）作成ほか

○開催日：平成26年3月11日（火）13時00分～16時00分

場 所：名古屋市立大学会議室

議 題：平成26年度事業計画方針ほか

（2）HIV 感染症・エイズ予防啓発のための資材作成と配布

同性愛者等のセクシュアル・マイノリティや HIV 感染者に対する偏見・差別については、地域によって異なった背景があるため、対象地域の特性に配慮しつつ、訴求性のある啓発資材等を開発し、普及を図った。また、同性愛者等の社会においても既に HIV 陽性者が多く存在することから、その点に配慮した。

（3）同性愛者等における HIV 感染症・エイズの予防や支援のための研修会の実施

地域の同性愛者等に対する偏見や差別を解消するため、また、HIV に関する相談や HIV 検査等を同性愛者等が安心して受けられる環境を構築するため、保健医療従事者、教育関係者、自治体職員等を対象とする研修会を実施した。

（4）相談事業

同性愛者等の性的指向を踏まえた、感染予防や HIV 検査機関等に関する相談、情報提供を行った。また、相談件数、内容等の集計を行った。

（5）その他の事業

本事業は、同性愛者等を対象としている商業施設が集積する地域において啓発活動を行う拠点を設置するものであり、各種施設や企画イベントと連携することで、より一層の効果が期待されるため、6 地域で活用できるコミュニティセンター紹介フライヤーやポスターを作成、配布した。また、商業施設を中心としたコミュニティに出入りすることのない同性愛者等に対しても、啓発イベント、インターネット、各種メディア等を通じて啓発普及を図った。

IV エイズ対策研究推進事業（厚生労働科学研究費補助金）

エイズ対策研究推進事業に対する応募申請の審査、採択を行うため、エイズ対策研究推進事業運営委員会を開催し、採択された（１）～（３）の各事業を実施した。このほか、（４）のとおり、研究成果等普及啓発事業を行った。外国への日本人研究者派遣事業は申請がなかった。

委員：石川信克（結核研究所）／武田康久（国立国際医療研究センター）／森光敬子（国立感染症研究所）／永井美之（理化学研究所）／中村安秀（大阪大学大学院）／◎倉田毅（国際医療福祉大学塩谷病院）

①日 時：平成25年4月26日（金）15時30分～16時25分

会 場：結核予防会会議室

②日 時：平成25年5月17日（金）

方 法：書面表決

③日 時：平成26年3月3日（月）10時00分～11時28分

会 場：結核予防会会議室

（１）外国人研究者招へい事業（公２・助成事業）

・招へい人数 1名 （国別）米国 1名

（２）外国の研究機関等への委託事業（公２・助成事業）

・委託件数 1件 （国別）ガーナ共和国 1件

（３）若手研究者育成活用事業（公２・助成事業）

・人数 46名

理化学研究所等研究機関（5機関） 6名

地方ブロック拠点病院等（10機関） 40名

（４）研究成果等普及啓発事業（公１・普及啓発事業）

・研究成果発表会 開催回数 1回

件 名：「エイズと悪性腫瘍」

日 時：平成25年11月21日（木）17時00分～19時00分

会 場：熊本市国際交流会館ホール6階（熊本市中央区）

内 容：講演「エイズと悪性腫瘍」「エイズと悪性リンパ種」「エイズと肺がん」

「エイズと子宮頸がん」「エイズと肝臓がん」「将来への展望」

参加者数：150名

V その他事業

(1) 名義の付与

出版社等の発行する小冊子、リーフレット等の監修を行い、監修名義を付与した。

自治体・企業・団体等が主催するHIV感染症／エイズに関する講演会、チャリティイベント等に後援名義を付与した。

管 理 部 門

1 理事会

(1) 第12回理事会

日 時：平成25年6月17日（月）17時00分～18時40分

会 場：エイズ予防財団会議室

議 案：平成24年度事業報告の承認の件／平成24年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算）及び附属明細書並びに財産目録の承認の件／定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件／代表理事の選定の件／理事長の選定の件

報告事項：第11回理事会（平成25年3月25日）以降の職務執行の状況

(2) 第13回理事会

日 時：平成25年3月24日（月）16時00分～17時30分

会 場：エイズ予防財団会議室

議 案：平成26年度エイズ予防財団助成事業及びポジティブ・アクション助成事業助成対象者の決定の件／平成26年度事業計画・収支予算の承認の件

報告事項：平成25年度決算見込み／その他

2 評議員会

(1) 第3回評議員会

日 時：平成25年6月28日（金）11時30分～12時30分

会 場：結核予防会会議室

議 案：議長の互選の件／議事録署名人の選出の件／平成24年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認の件／平成24年度事業報告の内容報告の件／理事の選任の件／監事の選任の件

報告事項：理事会の開催状況等について／その他